

## 第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 9日(水) PM19時00～21時00		
市町村名	堀金村	グループ名	2
メンバー	( : 司会、 : 記録者)		

### 1. 県配布資料(第1回要求資料)

前回交換会要旨 塩の道ハイウェー 地域の課題と道路整備効果 将来の交通量の予測  
 優先整備区間の検討 松本系魚川連絡道路整備順序(案) 調査内容 航空写真(閲覧)  
 地形図

### 2. 第1回記録の修正(修正記録参照)

M氏発言分、A氏発言分

3. 第1回要求事項であったA氏意見のメリットについて、10項目のメリット及び意見を含めて発表があった。(意見は要旨に盛り込み済)

### 4. 意見要旨(全員の意見要旨を関連づけてまとめた。県配布資料は各自の参考とする)

#### (1) 経費(税金)の使い方に対する意見

国、県が費用を負担するといっても我々の税金である。1km50億円もかけて、この堀金村に造らなければ解決出来ない課題があるのか。その様な課題は堀金村にあるとは思えない。本当に必要な道路であるか疑問である。税金の無駄使いとなる。

道路特定財源を、生活道路の整備のための信号機の設置、交通渋滞の緩和アクセス道路の整備等一般財源に変更して整備してほしい。

堀金大町間15kmの費用があれば、学校が16校、宅老所(1カ所500万円)260カ所、巡回バス(800万円/年)は2m分で1年走れる。乳幼児医療が無料となる等、一般財源として使用すれば多くの国民が助かる。

#### (2) 堀金村として考えた場合の意見

高規格道路が出来ることによって、堀金村の第4次基本計画(H13～22年)第1章の推進が出来なくなる。特に合理的な土地利用の促進、優良農地の保全、景観形成の推進、幹線道路(一般県道)の整備、村道の整備、田園風景を守るが出来なくなる。

社会進歩の中でも農地を残しておかなければならないが、農業では生活して行けない。農業に対する代償を考えてほしい。しかし、農業政策は全国的な問題であり、高規格道路を造ったからといって、農業が活性化するものではなく、堀金村のメリットとはいえない。

従って堀金村としては高規格道路は必要ない。

## 第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 9日(水) PM19時00～21時00		
市町村名	堀金村	グループ名	2
メンバー	( : 司会、 : 記録者)		

むしろ、高規格道路の財源を生活道路に歩道を設置したり、身障者に適応した整備、信号機の設置、交通渋滞場所の整備等生活道路を優先して整備してほしい。

特に豊科ICから国営アルプスあづみ野公園へのアクセス道路として、計画が進んでいる豊科IC ソニー 下堀 アルプスあづみ野公園間は全線農地をつぶして横断する道路となり、むしろこちらの方が安曇野の田園風景を破壊し問題である。更に生活道路の交通渋滞が予想されるので考慮してほしい。

### (3) 拡域道路として考える場合の意見

国営公園への入場者予測が200万人/年が50万人/年間に下方修正している現在南あづみ野一穂高間の交通量予測を14,400台/日は多すぎ、疑問である。

しかも中部縦貫道の建設が未定計画中断している現在、中京方面、東京方面からの観光客がほとんどである事、ましてや飛騨方面からの観光客が望めない現在、波田を起点とした高規格道路はナンセンスである。

県が指定して来た第3案ルートの豊科IC 高瀬川 由 大町ルートが現状や高速道路と接続すること。また高瀬川の護岸工事と兼ねて建設すれば一石二鳥で費用も軽減でき一番理想的なルートである。

従って、安曇野を従断する道路とはならず農業政策を別途に考えれば、白川郷や山形の山林の世界遺産の様に松本城と安曇野田園風景を含めた世界遺産登録が可能となり、文化遺産として、アルプスあづみ野公園と共に観光資源とも成り得る。

道路は財産である。物流が渋滞しない様また観光客が生活道路に入ってこない様インター等への分散が必要。高規格道路と生活道路は違う事を認識し、分離して作る方がよい。

### (4) その他、県として対応をお願いしたい

この意見交換会の結果がどの様な形で上へ持ち上げられるのか。プロセスが不明確であるのではっきりさせてほしい。

形式的な意見交換会となる恐れがあるが大丈夫か。

既に筋書きが出来ているともいわれるが本当か。県は本当に白紙で望んでいるのか？不信であるとの声があり会への参加者が減少したり、次回から欠席を表明している人もある。

次回予定 10月29日(月) 午後7時00分～9時00分 役場別館にて